

平成 27 年 7 月 7 日

各 位

会社名 株式会社ウェッジホールディングス  
 代表者名 代表取締役社長兼 CEO 此下 竜矢  
 (コード 2388 東証 J A S D A Q 市場)  
 問合せ先 開示担当 横山 幸弘  
 (TEL 03 - 6225 - 2207)

### トリニティ証券アナリストレポート

#### ～Group Lease、2015 年第 2 四半期利益は、引き続き過去最高益を更新する見込み～

昨日(2015 年7月6日) ご紹介いたしましたタン・フン紙掲載記事の原典となりますトリニティ証券アナリストチームのレポートを翻訳いたしましたので、下記にその和訳をご紹介します。

(以下、トリニティ証券アナリストチームのレポート和訳)

Trinity セキュリティーズ

2015 年7月2日

グループ・リース(GL)

2015 年第 2 四半期利益は、引き続き過去最高益を更新する見込み

2015 年第 2 四半期利益は、前四半期比 18%増および前年同期比 1775%増の 1 億 3000 万パーツと、前四半期における過去最高益を更新する見込み。主な支援材料は、タイ国内貸付の質が向上したため、貸倒引当金と回収したオートバイ売却に関するコストが減少したこと。貸付額は、カンボジアの急成長が追い風となるだろう。各四半期の利益が上昇傾向にあることを受け、我々\*は 2015 年利益予測を上方修正し、従来予測に比べて 16%増の 5 億 4100 万パーツにする。2015 年目標株価も 15 パーツに上方修正。”買い”を推奨する。

\* 訳者注 トリニティ証券アナリストチーム 以下「我々」は同チームを表します。

(本文)2015 年第 2 四半期利益は、引き続き過去最高益を更新する見込み

我々の予測では、2015 年第 2 四半期利益が、前四半期比 18%増・前年同期比 1,775%増の 1 億 3000 万パーツになる見込み。前四半期から引き続き、過去最高益を更新する。昨年来貸付審査を強化した結果、国内事業が回復傾向にあること、また中古二輪車の価格が上昇傾向にあることから、貸倒貸付金の引当額と、回収したオートバイ売却に関するコストが減少したことが主な支援材料となる。今期の信用コストは 5.13%で、前期の 5.44%および前年同期の 10%から大幅に減少する見込み。一方今期の回収車に関するコストは、前四半期の 1 億 700 万パーツから 1 億 200 万パーツに減少する見込み。貸付高成長率は、前期から 3%増となるだろう。カンボジアでの事業が急速に伸びていることが主因で、ひと月あたりの貸付台数が、従来の 1,800 台から 2,000 台に増加すると見られる。またタイ国内事業であるが、新車に対する貸付台数が、ひと月あたり 5,000 台と横ばいになる見込み。タナバンを通して、二輪車を担保とする貸付が行われている。経営コストに関しては、カンボジア事業が既に全土をカバーし終えたため、横ばいが続く見込み。

**海外事業が追い風、将来 M&A が増える可能性**

今年残りの各四半期の業績に関しては、利益が順次成長すると見られる。よって 2015 年純利益予測を、従来の予想に比べて 16%増の 5 億 4100 万パーツ(前年の 4.7 倍)に上方修正した。カンボジアにおける貸付額が次々に伸びる傾向にあり、年末には、ひと月あたりの貸付台数が 3,000-4,000 台に増加すると見られていることが背景。タイ国内事業では、新車に対する貸付台数が年末まで横ばいとなる見込みであるが、二輪車を担保とする貸付が順調に伸びている。我々は、「二輪車リースにおいてアジアでトップになる」という目標に基づき、GL が引き続き近隣諸国での事業拡大を狙っていると信じている。特にインドネシアは、市場が大きく成長の潜在能力を有している。GL は既に現地でのパートナーを獲得している。

**目標株価を 15 パーツに上方修正**

我々の 2015 年 GL の目標株価を、15 パーツ(PBV3.5 倍)に上方修正する。PER は約 30 倍で、我々が予測していた利益成長率を下回るが、PEG は 1 倍以下を維持。”買い”を推奨する。

以上